

令和6年度(2024)アサンプション国際小学校 学校評価報告書

1. めざす学校像

教育目標:「心身ともに、すこやかで愛に生きる子

～進んで学ぶ子、強く生きる子、神と人を愛する子～

1. 進んで学ぶ子

- (1) 基礎的・基本的学力を身につける
- (2) 自分で考え判断する
- (3) 自分の考えを表現し、分かち合う

2. 強く生きる子

- (1) 基本的生活習慣を身につける
- (2) 強い心と体をつくる
- (3) 責任を持ち、自主的に行動する

3. 神と人を愛する子

- (1) 自分の良さや人の良さを認める
- (2) 思いやりを持ち、友だちを大切にする
- (3) 感謝の気持ちをもって喜んで働く
- (4) 自然を大切にする

2. 2024年度 事業計画

【理 念】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す

CORE VALUES

Life	イキイキとエネルギーに生きる人
Truth	いかなる時でも真実を見極め、誠実に行動する人
Freedom	周りにながされず自分で判断し、自分らしく生きる人
Goodness	一人ひとりの善さを大切に、ポジティブに思考・発言・行動する人
Oneness	誠実・隣人愛・喜びの精神を大切に、多様性を認め、共に協働する人

【具体的な取り組みと評価】

(1) 授業力の向上

- ① 研究研修部が研究テーマを設定し、それに沿った教員研修を進める。研究授業では、全員参観を原則とし、事後研修会においても一人ひとりが発言しやすい手法を用いた研修を行う。
- ② PBL が特別な授業で使われる手法ではなく、日常的に取り入れられる学び方として全教員が認識することができるように定着させる。
- ③ iPad を「使う」ことから「使って何を考えるか」の授業に重点を置く段階へ移行していく。

(2) 英語力(イマージョン)強化

- ① モジュールタイムを確保することで英語に触れる機会を増やし、バランスよく英語力を向上させる。
- ② 定期的に会議の場を持つことで、イマージョン授業において PBL の授業を主体とするという意識統一を行う。
- ③ 中高のイマージョン部との連携し、中高との教員研修の場を持つなど更なる理解を深めていく。

(3) 学院的課題

- ① 幼稚園の園長推薦制のさらなる確立と内部保護者対象の説明会を実施し、内部進学希望者の増加に努める。
- ② 小学校の校長推薦制度の改革と中学校授業への体験を実施し、内部進学希望者の増加に努める。

(4) 宗教教育再生・強化

- ① 礼拝担当を通じて、Sr.の助言のもと、聖書や創立者の言葉について考える機会を定期的に設ける。
- ② 新任教員に対する宗教教育実施を行う。

3.【自己評価アンケートの結果と分析】(2025 年 1 月実施)

保護者アンケート
<集計結果> ①学院の 5 つの Core Values「Life,Truth,Freedom,Goodness,Oneness」を意識し、「世界の平和に貢献する人材」を育てる教育が行われていましたか。 肯定 62% 否定 8% どちらでもない 30% ②学院のモットー「誠実・隣人愛・喜び」を礎に、宗教教育を中心とした児童の心を育てる教育が実践できていましたか。 肯定 68% 否定 10% どちらでもない 22% ③ユネスコスクールとしての活動が、学校内全体に浸透させることができていましたか。 肯定 67% 否定 10% どちらでもない 23% ④児童が主体的に取り組む奉仕活動において、経験したことを深い学びにつなげられるような取り組みができていましたか。 肯定 72% 否定 8% どちらでもない 20% ⑤児童の基礎的な学力が定着できるように、日々の教育活動が進められていましたか。 肯定 63% 否定 16% どちらでもない 20% ⑥児童が個人の iPad を用意することで、教育的効果を上げるような授業が行われていましたか。 肯定 53% 否定 20% どちらでもない 27% ⑦日々の授業の中で、児童が主体的に活動できる時間を十分確保されていましたか。 肯定 65% 否定 11% どちらでもない 24% ⑧本校の英語教育は、4 技能（話す・聞く・読む・書く）をバランスよく向上させる内容で進められていましたか。 肯定 51% 否定 23% どちらでもない 26% ⑨モジュールタイムの導入により、英語に触れる機会が増え、定着につながられていましたか。 肯定 46% 否定 23% どちらでもない 31% ⑩本校の英語教育は、中高も含めた 12 年一貫教育として、つながりを感じられるような取り組みができていましたか。 肯定 30% 否定 31% どちらでもない 39% ⑪子どもたちの声に耳を傾けながら学級経営や教育活動が行われていましたか。 肯定 61% 否定 19% どちらでもない 20% ⑫挨拶や言葉遣いなど、様々な人とのつながりを意識した指導が、積極的に行われていましたか。 肯定 59% 否定 15% どちらでもない 26% ⑬学校行事や奉仕活動において、実施のねらいや目的を、学年に応じて児童に伝えることができていましたか。 肯定 67% 否定 11% どちらでもない 22% ⑭児童・保護者が感動できるような行事が実施できていましたか。 肯定 71% 否定 10% どちらでもない 19% ⑮小学校だよりを通して、学校の情報を発信できていると思われませんか。 肯定 75% 否定 7% どちらでもない 18% ⑯学年通信・学級通信を通して、学年や学級の情報を発信できていると思われませんか。 肯定 73% 否定 12% どちらでもない 15% ⑰アフタースクールやメアリーズクラスは、安心して預けられる環境で実施されてきましたか。 肯定 67% 否定 7% どちらでもない 26% ⑱保護者が併設中学校・高等学校に興味を持てるような情報の発信を行うことができていましたか。 肯定 35% 否定 23% どちらでもない 43% ⑲学校は、学習ポータルサイトやブログを、情報発信の場として効果的に活用できていましたか。 肯定 47% 否定 18% どちらでもない 35% ⑳HP に掲載されているブログを、どれぐらいの頻度でご覧になりましたか。 ほぼ毎日 2% 週に 1～2 回程度 9% 月に 1～2 回程度 32% ほとんど見なかった 41% その他 16%

(アカデミックコースへの質問) A-1 本校のアカデミックコースについて、イングリッシュコースとは違う魅力として感じられたものをお選びください。(複数選択可) (主な回答) 集団としてのまとまり 45% 落ち着いた雰囲気 38% 主体的な活動 31% 正しい日本語の定着 28% (イングリッシュコースへの質問) E-1 本校のイマージョン教育は、児童の英語運用能力を向上させるのに十分効果があると感じられますか。 肯定 61% 否定 20% どちらでもない 19% E-2 イマージョン教育を実施する上で、教員の TT による授業は効果的に実施できていましたか。 *TT=ティームティーチング (複数の教員がチームで指導をすること) 肯定 64% 否定 16% どちらでもない 20% <個別の意見> ・いつも楽しく通わせて頂きました。今年1年、紅白対抗リレーやレシテーションコンテスト、クラスで表彰されたり、個人の頑張りが表だって評価されることが多くありました。 ・シスターのお話や担任の先生からも日々、お友達の気持ちを考えることを教えてくださっているのだと伝わってきます。 ・iPadを活用してのICT教育には賛成だが、一部、授業中に学習に関係ないことに使っているという話を聞く。ルールやリテラシー教育を強化し、上手に活用できる環境を構築してほしい。 ・プリントではなく、ネット上で閲覧・確認ができれば便利です。
分析
2024年度は、運動会、学習発表会やチャリティ・デーといった学校行事も例年通りに実施された。授業のスタイルも教室での座学だけにとどまらず、校庭に出て観察をしたり、社会見学に行ったりすることができた。また、食育や茶道といった命を育てる授業や礼儀作法についての学びも従来通り取り組むことができ、心の教育にも力を注ぐことができた。グループ活動やプレゼンといった思考力や表現力を訓練する授業展開も多く取り入れ、主体的に学び考える機会も増えた。これらの活動の結果は、学校評価の保護者アンケート結果でも伺うことができる。今年度はほとんどの項目で肯定的な評価が増えるという結果になった。子どもたちが学校生活の中で学んだり楽しんだりしたポジティブな経験をご家庭で保護者の方と共有する中で得られた結果ではないかと推測できる。 一方で、否定的な意見が多い項目は、iPadの活用について、モジュールタイムの成果、併設中高の情報発信が主にあげられる。上化社会においてICT活用は必須となっているが、活用の際し、モラルの面での教育が大変重要となる。学校としても引き続き情報機器の扱い方について教育していきたい。また、モジュールタイムについてはどのように運用しているのかなど見えにくい部分があるので、発信できるように努めていきたい。最後に併設中高の情報発信については、まだまだ不十分で中高の様子が見えにくいという声もいただいている。引き続き中高と連携を取りながら、併設中高の良さを発信していきたい。

5. 学校関係者評価 (2024年度の父母の会さんのコメント)

日頃の教育活動において、今年度も学校は子どもたちの発言に耳を傾け、日々熱心にご指導いただいていると感じます。挨拶や言葉遣いなどの基本的な生活習慣についても、アサンプション国際小学校の児童はしっかりできていると感じます。全体的に穏やかな児童が多く、落ち着いている印象があります。情報発信についても、熱心にして下さっている印象です。小学校だよりをはじめとするお便り、学校ブログなどを発信源として、様々な角度から情報発信をしてくださり、感謝申し上げます。そういった情報を基に、親子のコミュニケーションが生まれているご家庭も多いのではないのでしょうか。英語イマージョン教育については、その有用性を非常に感じます。英語の授業だけでは、英語能力の習熟は多くを期待できません。日常の多くの場面で英語を使うという環境は、子どもたちに英語を使うのが当然というマインドセットにも役立っていると感じます。一方で、日本語が拙くなってしまうのも困るので、今のイングリッシュコースのバランスが、日本人の英語習得においては非常に良いと感じています。最後に、ユネスコスクールとしての活動が保護者として具体的に見えておりませんので、そのあたりの取り組みの様子はもっと知りたいです。
--

6. 本年度の取組内容及び自己評価

最重点課題	今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・ 内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1. 教育内容の充実 ↳教育改革・男女共学・校名変更の浸透	(1) 教育内容の充実	①イマージョン教育の体制作り ②アクティブラーニング(AL)の向上深化 ③ICT 授業の全学年取り組み強化	①下記二点の取り組みを実施し、イマージョン教育の体制作りを行う。 ・ネイティブ教員と日本語教員のティームティーチングを展開。 ・定期的な併設中高との情報交換の実施。 <評価方法> 両取り組み実施 → ○ 一方のみ実施 → △ 未実施 → × ②研究研修部を中心に、各教科でALを取り入れた授業を展開する。また、各学期に1回専門の講師による研修会を行う。 <評価方法> 研修会の各学期1回実施、及び、年間計画達成度80%以上 → ○ 研修会の各学期1回未満実施、及び、年間計画達成度50%以上 → △ 研修会未実施、及び、年間計画達成度50%以下 → × ③情報科教員が、タブレット(iPad)を使用した情報教育を実施、(メディア教育とプログラミング教育を行う) 低学年→機器に親しみ慣れる 中学年→情報の収集・加工 高学年→保護者の前でのプレゼンテーション実施 加えて、プログラミング教育においてはコンピュータを使用しないアンブラグド、ロボットを使用したロボットプログラミングまでを段階的に実施し、プログラミング的思考の育成に努める。 <評価方法> 学年別目標を児童の80%以上達成 → ○ 学年別目標を児童の50%以上達成 → △ 学年別目標を児童の50%以下達成 → ×	①結果 ○ ・高学年において授業内容の理解度について課題はあるが、概ね実施できた。 ・中高との定期的な連携(コーディネート者の指導等)を更に進めるべきではある。しかし中高の英語イベントに参加するなど連携を進めることができた。 ・英語教育のあり方に関しては保護者アンケート中の意見欄にも毎年記載があり、引き続き真摯に対応したい。 ②結果 ○ ・定期的に外部の講師をお招きし授業を見学してもらい、事後研修を重ねた。 ③結果 △ ・低学年・中学年・高学年ともおおむね目標を達成している。 ・プログラミング教育は、実施ができておらず、各教科での実施が今後の課題となっている。 ・次年度に向けて具体的な取り組みや評価指標を示していきたい。 ・ICT 教育の環境整備においてWifi環境などの課題が残る。

2. 改革と伝統のバランスく伝統を守りつつ改革を成功させるく	(2) 改革と伝統のバランス	①カトリック教育の伝統視 ②アサンプションの教育の強化 ③マナーの向上	①教員の宗教研修会を各学期に 1 回以上実施する。 ＜評価方法＞ 各学期 1 回以上 → ○ 各学期 1 回 → △ 未実施 → × ②一人ひとりを大切に児童と教員の関りが密であることがアサンプションの教育である。そのことを意識した研究授業を各教員が年 1 回実施し、お互いの授業について研鑽をする。 ＜評価方法＞ 教員 9 割以上実施 → ○ 教員 5 割以上実施 → △ 全教員未実施 → × ③掲示板にマナー心得を掲示し、日常生活の中で自然に意識をたかめる取り組みを行う。また、動的取り組みとしては、朝礼時に児童と教員とで心得を唱和することによりマナー意識の共有をする。 ＜評価方法＞ 掲示実施、及び、毎朝礼唱和 → ○ 掲示実施、又は、毎朝礼唱和 → △ どちらも未実施 → ×	①結果 △ ・宗教研修は実施できなかったが、新任教員が増えているため、各宗教行事の実施計画を共有する際に、ていねいな説明をシスターより入れ、行事の重要性を共有することができた。 ②結果 ○ ・カトリック教育、アサンプションの伝統教育には保護者のアンケートにて多数の思いを受けており、引き続きスクールモットーを中心に教育を進めていきたい。 ③結果 ○ ・毎朝、朝礼にて唱和して確認をすることができた。また、全校朝礼でも生活指導部より講話をしたり、マナー意識の向上に努めた。 ・北門での「小学校のあいさつ運動」は継続して行われた。引き続き行い、学院全体を巻き込んでいきたい。
3. 2018 年度入学試験の継続的活性化 く目標 70 名以上（ベスト 80 名）く	(3) 2018 年度児童募集の成功	①広報活動に全教職員が当事者として関わる。 ②入学試験の実施方法見直し。 ③入学試験スケジュールの円滑化	①外部幼稚園、幼児教室への訪問活動を強化し学校説明会、入試説明会を全教員一丸となって充実させる。 ＜評価方法＞ 訪問強化、内容充実 → ○ 頻度、内容に課題あり → △ 十分ではなかった → × ②併設幼稚園の園長推薦入学制度を導入する。試験内容も見直す。 ＜評価方法＞ 制度の成功、見直し実施 → ○ 未実施 → × ③最優先の行事として全教職員が募集スケジュールの円滑化に協力する。 ＜評価方法＞ 十分 → ○ 課題を残す → △	①結果 ○ ・訪問件数を増やし、広報活動を進めることができた。更なる児童獲得には幼児教室での学校説明会などの機会をもっと増やしていきたい。 ・チャレンジ目標は未達成とはなるが、幼児教室とのつながりは引き続き強化していきたい。 ②結果 △ ・園長推薦を導入するが反響は小さく内部進学者は少ない。 ・試験内容は見直し不十分である。判定会議の運営は管理職主導で実施できた。 ③結果 ○ ・スケジュールとしては円滑に進めることができた。

4. 内部進学率の大幅向上 ↳目標60%以上↳	(4) 内部進学率の大幅向上	①中学校教員との連携強化 ②内部進学準備(意識づけ)の学年を広げる ③併設中高との交流活動行事活性化	①6 年担任と中学教員とで内部進学児童の一人ひとりの情報交換を入学式までに行う。 ＜評価方法＞ 実施 → ○ 未実施 → × ②4～5 年生から併設中学進学に興味、関心を持たせる内容を企画し、クラスや保護者説明会を通して発信する。 ＜評価方法＞ 積極的に実施→○ ある程度実施→△ 実施せず →× ③中高教員による小学校授業やクラブ活動(児童)、運動会(児童・生徒)等への参加率向上 ＜評価方法＞ 向上 →○ 不変 →×。	①結果 ○ ・最低限の情報交換はできているが、基本的な連携には課題が残る。 ・内部進学ルールを見直し、定着させる課題が残っているので見直していきたい。 ②結果 △ 学校説明会の案内や本小学生向けの学校説明会を実施することができた。実施時期や内容には課題が残るため引き続き中高とも連携を進めていきたい。 ③結果 △ 毎年、高校2年生の探究の授業の一環で小学校に来て授業をする。今年も実施することができた。ただ、クラブ活動や運動会等への参加は実施できなかった。
5. 各園校・教職員間の連携強化 ↳情報共有化と職場改善↳	(5) 教職員の連携強化	①情報共有化と相互理解 ②職場環境改善と労働条件向上	①毎月の所属長会議(年12回)にて次月分の行事について情報共有し、また各校園にも率先して呼びかけることでお互い突然の行事調整がないよう相互理解の徹底を図る。 ＜評価方法＞ 12 回実施 → ○ 6 回以上実施 → △ 1 回以上実施 → × ②質量ともに職場環境改善、労働条件改善に取り組む活動を通して学院全体の教職員が連携を深める。 ＜評価方法＞ 理想通り実行 →○ 思いはあったが壁高し→△ 全くできず →×	①結果 △ ・基本的に月1回の所属長会議を実施することができ、各校種で情報を共有することができた - ただ、議論をする時間は少なく、継続して運営について協議する必要はある。 ②結果 △ ・職場環境改善は予算の問題がネックとなり、ほとんど実現できなかった。 ・労働条件向上については、色々課題は残る。時間外管理については「サービス残業ゼロ」を実現したが「残業削減」にはつながっていないので今後の改善が大きな課題である。
6. 施設・設備上の課題	(6) 施設・設備改善	①実施事項 ②検討事項	①男子トイレ(2F)新設、図書館の充実 ②動場の土壌改善、給食制度のあり方 ＜評価方法＞ 実現 →○ 進行中 →△ 中止 →×	①結果 トイレ○、図書室× ②運動場 △ 給食 ×(ただし弁当改善) ・施設・設備上の課題は小学校だけの問題ではない。引き続き学院全体の課題として検討、対応すべきである。